

新庄

という船に乗って



新庄地域振興会

はじめに

「新庄という船に乗って」発行にあたって。

この本を手にとっていただき、とても嬉しく思います。これから新庄地域で暮らしていく上で、疑問に思われること、こんなことは聞いていいの？ そんな不安を抱えることもあるかと思います。まずは、新庄ってどんな地域なん？というところからご紹介できればと思います。

新庄の地域は特別、「世界遺産」になっているようなものがあるわけでも、ダイナミックな自然が広がっている訳でもありません。しかし土地の歴史は古く、古代から営みの続くこの地域は、1889(明治22)年の町村制施行により「新庄村」となってからも、農作を中心に今に続く四季折々の原風景が広がる豊かな地域です。山からの恵みをいただき田畑を耕し、暦の流れと共に生きてきた、先代の営みを肌で感じる、そんな地域です。気に入っていただけたら幸いです。一緒に新庄の暮らしをはじめませんか。

新庄地域振興会

亀岡盆地は「丹の海（にのうみ）」であったとされ、
赤い波が立ち、大蛇の棲む大きな湖でした。

大国主命は、出雲の神々とともに筏でやってきて、
あたりを見渡し、この土地をうまく活用できない
かと話し合いました。



そこで、保津峡を開削して水を抜き肥沃な大地に変えることになりました。

それ以来、この亀岡盆地は広く農作地が広がる米作地になりました。

この神々が筏でやってきた場所は、いま新庄地域にある筏森山だと言い伝えられています。



かつて新庄地域では、木材を運搬するために上流から京の都へ向けて、筏が川をくだりました。船枝あたりは筏の停泊地である「船居」であり、新庄にある船運の守り神である神社・船井神社の社名はそこに由来すると言われています。

そう思うと、山に囲まれ、農地が広がり、川が流れていくこの地は、私たちが旅するように暮らす船のような場所なのかもしれない気がしました。

この『新庄という船に乗って』という本は、乗組員であるここに暮らす私たちが作りあげる一冊の本です。普段は改めて見つめることの少ないこの土地にあるたくさんの素敵なものを「載せて」いきます。ここには気持ちのよい空気が流れています。その風に乗って、船はゆっくりじっくり進んでいきます。



目次

- p. 10- 新庄地域を知る 6 つのこと
- p. 12- 新庄地域ってどんな場所？
- p. 14- Pick Up
夢草市
- p. 16- やぎ地立計画
- p. 20- 新庄郷育館
- p. 22- むろはし天王直売所
- p. 26- 食道具 竹上
- p. 28- 新庄地域とスポーツ
新庄地域と学校
- p. 32- Pick Up
バーバー栗山
- p. 36- 新庄の牧場
- p. 38- かえるのお宿
- p. 40- WHAT IS KABU ?
- p. 42- Pick Up
住人が撮ったいろんな場所
- p. 46- 新庄地域にある寺社仏閣
- p. 48- 新庄に移り住む
- p. 52- Pick Up
住人が撮ったいろんな場所
- p. 54- 地域活性に取り組む「同級生」
- p. 58- 6 つの地区
- p. 62- 地域の仕事

掲載している写真について

『新庄という船に乗って』に掲載している写真は、一年かけてフィルムカメラの「写ルンです」を配布し、住民の皆さんに撮影していただいたものです。普段からこの地に住んでいる皆さんが船頭となって、新庄を案内してもらうような気分で、ページを繰って行って楽しんでいただければと思います。

新庄地域を知る 6つのこと

1 堰水先生と教育

井上堰水先生は新庄小学校の初代校長先生です。幕末に維新の志士として活躍した後、「日本の未来のためには教育が必要だ」と教育に人生を捧げ、地域の人材育成に尽くされました。まだ学校教育がはじまったばかりであった日本にあって、画期的な教育を取り入れられました。学校田や学校林での授業など、その地域独自の教育方法を早期から導入、「地域で学び育つ」新庄の風土を作られたのでした。



2 農業に向けた 肥沃な土地

新庄地域のある南丹市は、森林資源と水資源豊かな土地です。山に囲まれその恵みをいただき、美しい川のそばで田畑を耕す。新庄では、昔からそのような暮らしがずっと行われてきました。



3 船井神社という 伝統の場所

神功皇后による三韓征伐の際、住吉明神に守護を祈られました。その後、海路を無事に渡り三韓征伐に成功したことから、この地に住吉明神を祀られたことが船井神社のご由緒だと言われています。大堰川に沿う船の寄泊地であり「船が居る」という由来から名付けられました。大堰川の氾濫により705年に「鹿野森」に遷されました。1769(名和6)年には、宮司がいなくなったことから、村から一年交代で一人が役割を担っていました。本殿には住吉の神様・春日の神様が祀られています。1832(天保3)年に本殿が焼失しましたが、1835(天保6)年に再建されました。

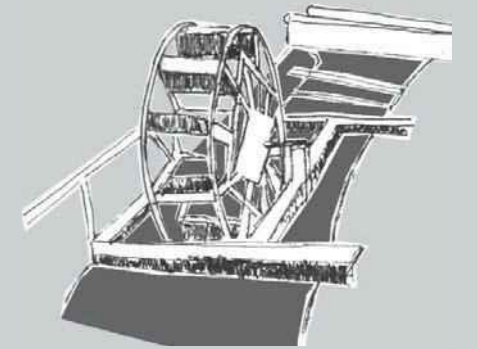
4 水が綺麗

農業にも向く水の綺麗な土地であることから、新庄地域にはいくつかの企業が工場を構えています。男前豆腐やメグミルクなど、「とても美味しそうなもの」にとって、水が綺麗な新庄は最適な土地なのかもしれません。



5 木喰さん ゆかりの土地

木喰さんゆかりのお寺・清源寺が新庄地域にあります。1806(文化3)年に清源寺に木喰上人(しょうにん)が訪れました。当時、89歳であったとされています。木喰上人は、和尚の依頼を受け、5ヶ月滞在し28の神仏を彫刻し、そのうちの22体の木喰仏がいまも祀られています。木喰上人が全国で奉納したちょうど千体目が清源寺の「釈迦如来」なのです。



6 文覚上人が 立ち寄った

もともと川の流れるところから、少し離れて位置していた室橋。ここでは、大堰川の水がないときに農民たちが水不足で苦しんでいたといいます。ある時、寺領の見回りのため新庄地域を訪れた山城の国高雄神護寺の僧であった文覚上人がその様子をご覧になりました。そして、西の山間に池をつくりなさいと村人に伝え、村人と協力しながら用水池を造られました。この池は、文覚上人の名前から、「文覚池」といわれるようになりました。そして村人たちは文覚上人への感謝のため、水路の上にお堂を建てました。「文覚堂」と言われ、村人たちは、毎年田植えが終わるたびにお堂にお参りして早苗を供え、豊作を祈願したといいます。

新庄地域って どんな場所？



新庄のあるところ

京都府の中部に位置する南丹市は、北から福井、滋賀、兵庫、大阪の4府県と隣接する全国的にも珍しいまちです。南丹市は森林・水資源が豊富で、太平洋に向かって流れる「大堰川（桂川）」、日本海川に向かって流れる「由良川」の水源でもあります。面積の約9割が森林で、かつては木を切り出し、大堰川にのせて京都のみやこまで筏を組んで運んでいました。

新庄地域は旧小学校の単位で八木町の中で「北」と呼ばれる地域にあたります（旧八木小学校地区 - 南、旧吉富小学校地区 - 西、旧富本小学校地区 - 東、旧神吉小学校地区 - 神吉）。

京都府下でも広大な面積を誇る亀岡盆地の田園の北の端っこにあたります。

新庄という船に乗って

新庄地域への行き方

【電車で】

JR 嵯峨野線より京都駅から JR 八木駅 (40～50分)

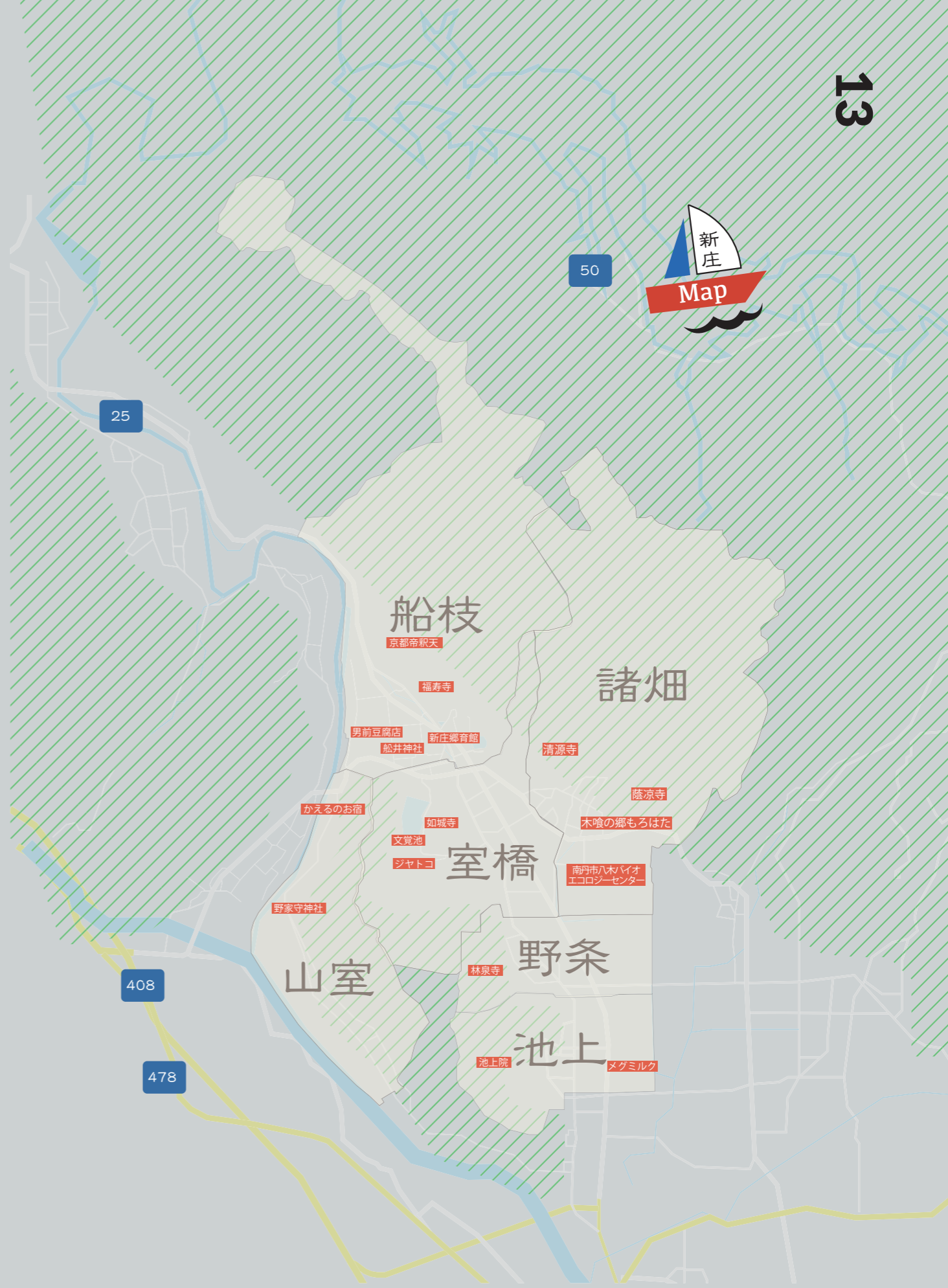
→自転車で八木駅より約25分、吉富駅より約15分

→デマンドバス

【お車で】

国道9号線でまっすぐ約1時間。京都縦貫道 八木西口より5分

- 645年 丹波国府が置かれる
- 705年 船井神社が鹿野森へ遷される
- 1159年 吉富荘となり、藤原成親が伝領する
- 1177年 室橋に文覚上人が訪れ、文覚池がつくられる（1180年ごろ完成）
- 1673年 八木町の街ができ始める
- 1805年 木喰上人が清源寺を訪れる
- 1872年 新庄に進修小学校が設立
- 1889年 町村制の施行により各村が（船枝区、室橋区、山室区、諸畑区、野条区、池上区）の6集落が区域を持って新庄村が発足
- 1900年 京都鉄道、京都一園部間が開通
- 1915年 八木村が八木町となる
- 1935年 大堰橋竣工
- 1939年 新庄橋竣工
- 1951年 新庄発電所竣工
新庄、八木、吉富、富本の4町村が合併、八木町となる
- 1961年 国道9号線完成
- 2006年 園部町・八木町・日吉町・美山町の4町が合併、南丹市となる。





パン、お菓子、コーヒーといった飲食物や、ガラス製品や革製品などの手作りの品など天然素材由来の20以上のお店が出店する。

Pick Up

夢草市

Yume Kusa Ichi



道草をしながらも
夢に向かう
みんなの夢の後押し

諸畑にある松本一弥さん一家が住む家。木工仕事をするための工房もあり、インテリアと内装にこだわった素敵なお宅だ。ここでは、春と秋の年二回、「夢草市」というイベントが行われている。松本さんがセレクトした作家によるマーケットで、2019年で20回目を数える。取り扱う品物は、自然素材のものだけで、プラスチックなどを使



木工仕事のための工房。一弥さんは、自宅の棚をつくったところ、思った以上に喜ばれた経験から木工の楽しさを知った。

用したものはこのマーケットには並ばない。どこかの公共施設やお店を借りるのではなく、あくまで、自宅で続けている。

もともと「手づくりどっとコム」という名前で始まった。続けていくうちに、どういうイベントづくりをしていきたいのかが見え始め「夢に向かって、道草しながら進んでいこう」という思いで、夢草市と改称することになった。

夢草市の一番の推しはなんといっても、そのクオリティの高い作品のセレクトだ。出店者のなかにオリーブオイルを輸入販売している人がいる。そのオリーブオイルの品質に惚れ込んだ奥さんが、どうしてもこの作品を置きたいと、縁もゆかりもないところから交渉を始めた作品だ。品質管理の問題から近隣ではない夢草市への出店は難しいということで断られてしまったのだが、それでもどうしても出店してほしいと、3度依頼を続けて、最後には出店を承諾してもらったという。

こだわった作品を選び抜いて続けてきた夢

草市は、現在は遠方からのお客さんも多くなったという。お客さんのなかには、特定の作家のファンも多く、「どんなものがあるか見にくる」のではなくて「その作家さんの作品を買いに来る」という方も多い。春と秋の2回開催は、作家の新作がちょうど登場するタイミングでの開催となることから、毎回毎回新しい作品を見ることができるとお披露目の場となっている。

庭と家の中を使って、賑やかに行われる夢草市は近隣住民からも愛されており、いつも楽しみにしている人たちがたくさんいるという。民家で人がたくさん訪れるイベントを実施するには駐車場が問題となるが、「駐車場としてうちの庭を使って良い」という近隣住民の方の温かい支援と協力により、実現している。一弥さん夫妻は、このイベントをずっと、自宅を使いながら続けたいという。お二人、お客さん、作家さん、みんながそれぞれ道草をしながら、思い描く将来の夢へと近づいていけるようなイベントとして今後も続いていく。



自給自足ならぬ
地給地足する
地域を目指して

八木町でヤギを飼い、地域の情報の発信源にしよう。そんなところから、2015年に地元出身の若者数名ではじまったやぎ地立計画は、「自給自足」を一步広げた地域を循環する「地給地足」と「地立」を目指して、さまざまなイベントや取り組みを行なっている。

2018年春からは、南丹地立計画協議会として田舎ならではの自然の移ろいの中にある季節の手しごとや野良作業をするグループ「てしごとの日」をはじめた。八木町と京都市内を結び、都会の人へ、季節の手しごとの面白さと田舎暮らしの魅力とを伝えるため「白みその会」や「栗の会」といった定期的なイベントを行っている。

また、この先10年で行いたい活動マップである「風景をつくる活動計画」を一年かけて作成。里山の資源をふんだんに活用するイメージを膨らませている。特に今後の課題は農的暮らしをベースにおき、若い世代が外に通い生きるのではなく、小さな小商いをもち、それぞれが支え合ってこの地域の循環のなかで生きていけるような生き方の提案だ。

いま一度この里の風景をつくろうと改めて

さびはうす横にいるヤギの「ヲネさん」。実は、やぎ地立計画のリーダーだ。田舎の田園風景のなかにいるヤギの姿は意外と溶け込んでいる。

全て無農薬・手作業でのお米づくりにも挑戦している。すこしずつではあるがそんな挑戦に惹かれて参加者もやってきている。まずはこの地域にきてほしい、そしてこの豊かで穏やかな巡りを感じ、ここの一員になりたいと思ってもらえたらいちばん嬉しい。そんな思いで活動を続けている。やぎ地立計画の拠点は船枝にある「さびはうす」。いまは使われなくなっていた古民家を再生し、目の前の田んぼでは米をつくっている。この地域の風景を次世代につなげていきたいと願っている根底にはこの地域、風景に育てられたという感覚があるからなのかもしれない。



Pick Up

Yagi jiritsu keikaku

やぎ地立計画



新庄郷育館



人づくりと居場所づくり によって 郷づくりを目指して

井上堰水先生が新庄小学校をつくり、143年が経過した2015（平成27）年3月。地域とともにあゆみ続けてきた新庄小学校がその歴史に幕を閉じ、跡地に「新庄郷育館」が誕生した。

同館は、地域活性の拠点施設で、地域振興会が運営。「人を育み」「自然を育み」「安心な暮らしを育み」、子ども・若者・中高年齢者・男女を問わず安心、安全な、人の温かみがわかる、活気あふれる地域づくりを実現することを目指している。新庄地域がある南丹市では、小学校跡施設を利用した「地域活性化センター」が7つあり、新庄郷育館はそのひとつだ。教室や体育館、運動場などが利用可能で、教室は日ごとの予約だけでなく、一定期間を専有することが可能になっており、



季節によって、地域のイベントが行われる新庄郷育館。小学校が閉校したいまも、地域で育む教育が根付いている。

現在もいくつかの市民団体等が利用している。

新庄郷育館はスペース利用だけでなく、「新庄移住相談窓口」を開設しており、新庄に住みたいと考えている移住希望者が、空き家の有無も含めて相談ができるようになっている。

そのほか、「収穫祭」「かやのもり市」、子どもたちの「サマーキャンプ」「サロン」などのイベントを年間を通じて行なっている。もともと「地域独自の教育を」と考えた堰水先生の教育が根付いているのかもしれない。

地域にある豊かな自然と人々とのつながりを大切にしたイベントを通じて、新庄という場所を知り、地域の人たちを知ることができる。

新庄郷育館を運営している新庄地域振興会のメンバーはみな、新庄地域で暮らす人々だ。そして、大半は旧新庄小学校の卒業生でもある。かつてそこで学び育った卒業生たちが、今度は地域を活性化させるという目的に向かって一丸となり、新庄郷育館に集っている。地域の中心であり、財産でもある旧新庄小学校。住んでいる人たちとこれから住みたいと思っている人たちにとって、大切な新庄という地域を守るために、新庄郷育館は運営を続けている。

Murohashi Tennou Chokubai jo Pick Up

むろはし天王直売所



価格の安さが
自慢の室橋区の朝市



新庄地域のおおよそ中央部にある室橋区。その小川沿いで、7年にわたり開催されてきたのが「むろはし天王直売所」だ。いわゆる朝市で、地元の農家さんがつくった新鮮で安い野菜が店頭に並ぶ。室橋区では、自分たちの区を盛り上げるために三つの柱を立てており、環境美化、親睦交流に加えて、農産物販売を掲げている。そして同直売所は、区全体の理解を得ながら農産物販売のためにはじめられた。現在

は6名が主体となって直売所を盛り上げようと頑張っている。かけられるお金が潤沢にあるわけではないということで、テントは手作りで自分たちができる限りの範囲で行なっている。4月から12月までの間、毎週日曜日に8時30分から11時ごろまで開催している。新鮮な野菜を求めて朝から並んでくれる地元の人や、なかには高槻などの遠方からやってくるお客さんもいるようだ。定期

的に続けてきたことで、ファンが生まれてきた。寒い季節には直売所そばで、お客さんもスタッフも火を囲む。「寒くなったなあ」「こないだこんなことがあってん」と会話がはずむ。商品を買うだけの場所ではなく、自然と交流が生まれる場所で、人と人とのつながりを感じられる風景が広がっていた。



人口減少と少子高齢化の波は新庄地域にもおとずれている。それでも、そこに住む子どもたちの笑顔は何物にも代え難く、尊い。



食道具竹上

Pick up

Shokudogu Takegami



日本の庖丁文化を 世界へ発信する

たけがみ薬院があったころ、このあたりは「新庄銀座」と呼ばれていたそうだ。



新庄という船に乗って



食道具 竹上は、日本で唯一の庖丁コーディネータである廣瀬康二さんが営業する庖丁の製造・修理店だ。

同店は2010年の創業ではあるが、かつてこの場所には、たけがみ薬院という薬屋があった。たけがみ薬院を営業していたのは、廣瀬さんの祖父母だ。

廣瀬さんは大学時代にアルバイトしていたマグロ卸問屋で、「人生の師匠」と慕う職人から宝物の庖丁を見せてもらったことから、庖丁職人の道を選ぶことになった。そして開業を決めたとき、思い出深い祖父母のいた新庄を選んだ。「医食同源」という言葉があるように、料理に用いる庖丁と祖父母の薬というものに共通するところを感じたという。

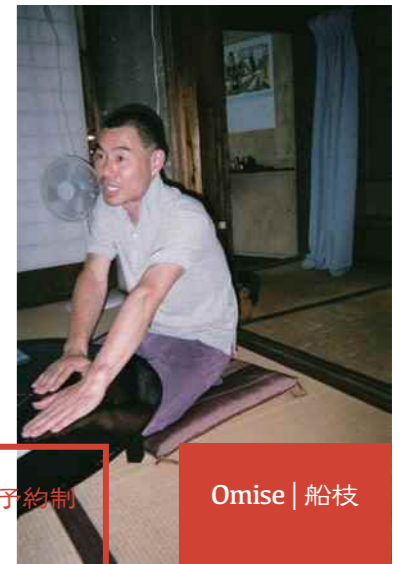
「竹」という言葉が、日本の庖丁文化を守りたいという廣瀬さんのイメージによくあっていたことも、店名を引き継ぐことを決心させた理由であった。日本は実は庖丁大国で、料理庖丁と言っても、魚を捌く出刃庖丁、刺身庖丁などその数は多種多様だ。これほどまでにたくさん庖丁を使い分けるのは日本ぐらいなのだという。片刃でつくられている和庖丁は食材をただ切ることが目的なのではなく、美味しく、そして美しく切るための道具でも

「文化の接地点」を目指し、同店では京都市内にアンテナショップも開業している。

ある。

庖丁店である同店が主に行うのは、鍛冶屋で鍛えた刃に柄をつけ、整え、研ぐことだ。それがエンドユーザーである料理手に渡っていく。上質なものづくりは、分業制でそれぞれの工程を別の職人が行う。食道具 竹上は庖丁コーディネータとして、ネットワークを駆使しながら用途ごとに鍛冶職人に声をかけて、庖丁を製造している。料理人と直接対話しながら一丁の庖丁を造り上げる食道具 竹上の技を求めて、全国からここ新庄の地へ料理人が訪れる。それは国内からだけではなく、パリやミラノといった海外の料理人も同店の庖丁を求めてやってくるのだという。

廣瀬さんは祖父母の家があり、幼い頃から遊びに来ていたこの土地でお店をひらいていることをとても誇りに思っているという。空気が新鮮で、懐かしい思い出の土地でもある新庄地域がとても好きだと話してくれた。



船枝半入 58-2 | 予約制

Omise | 船枝



新庄地域とスポーツ

現在、新庄地域では船枝区と山室区が地域の運動会を行なっている。年に一度の機会だからと足を運んでくれる80代のおばあさんたちがいたり、移住者の若い夫婦の赤ちゃんがアイドルのようにみんなに可愛がられていたりする。運動会はいつの時代も変わらない笑顔に出会うことができる。

春と秋に体育振興会主催でおこなわれる球技大会では、新庄全地域の住人が集まる。春は、男子ソフトボール、女子バトミントン。秋はバレーボールで競い合う。普段は仕事で外に出ている若い世代も集まるので、とても活気に溢れる。ソフトボールは山室区にとっては、「優勝せねばならぬもの」らしい。



新庄地域と学校

新庄小学校が2015年3月に閉校したあと、新庄エリアの子どもたちは八木町青戸馬垣内にある八木東小学校へとスクールバスで通っている。新庄地域の各区ごとにバス停があり、そこから登下校する。おおよそ10分程度の通学だ。以前は新庄小学校へ向かって農道を子ども

たちが連なって登下校する光景が見られた。今ではバス停までの道のりを子どもたちが歩き、バスに乗り込み手をふる。見送る姿には地域のみんなで見守っている様子が感じられる。「子は地域の宝だ」。昔も今もその存在の大切さは変わっていない。



食道具 竹上から歩いてすぐのところに一軒の理髪店がある。BBR.Kuriyama（バーバー栗山）だ。同店は、1936（昭和11）年から90年近く営業している。店主の栗山一也さんのおじいさんが営業を開始した。一也さんは跡を継いだときに、このままここで営業するかそれともどこかに移るか、少し悩んだというが、そんなときにある投書が店に寄せられた。「ここか

ら無くさないでほしい」という内容だった。それを見た一也さんは、地域に愛されているお店だということに気づき、この場所で営業しつづけることを決めた。お客さんのなかには、おじいさんの頃からバーバー栗山に通いつづけている方もいるというが、一也さんはこれまでずっと来てくれた人たちを大切にしつつも、自分なりにできる新しい取り組みを行い続けてきた。



Pick up

bar-ber kuriyama

BBR.Kuriyama



ずっとここで
理髪店をつづける

世代的には、40代以降の男性が中心で、育毛やヘッドスパ・フェイシャルエステなども提供しており、わざわざ都会に行かなくてもきちんとしたサービスを受けられる価値を追求している。こうしたサービスを気に入ってくれた人のなかには、滋賀県から訪れるお客さんもいるという。

「田舎だからできない」とは考えない。魅力的な店づくりで「無くさないでほしい」とまで言われた。おじいさんの時代からずっと続いてきた地域にとって必要な場所のひとつであるバーバー栗山を守り続けていく。そのためにこれからも、カットだけではない愛される理髪店を心がけ、この地域で営業を続けていく。



新庄の牧場



谷牧場と西河牧場

新庄のある南丹市は、じつは京都のなかでも酪農が盛んな地域だった。多い時には90戸の酪農家があったというが、現在は10戸程度。そのうちの3戸は新庄地域にある。山室に1件、そして池上に2件だ。池上はとくに酪農家が多く、多い時には池上内に10以上の牧場があったという。いま残るのは「谷牧場」と「西河牧場」の2つだ。

かつては、地域の田畑の稲藁を牛の餌にし、牛糞を堆肥にするという風に循環していたが、その後バイオエコロジーセンターにて牛糞を処理することになった。バイオエコロジーセンターは諸畑にあり、運搬も容易だ。かたちは変わったが、地域のなかでの循環は続いていると言えるかもしれない。

牧場で採れた牛乳はいったんJA京都酪農センター経由で、メーカーに納入される。酪農家は、京都産として一丸となって品質の高い牛乳を生産している。2件の牧場のすぐそばには雪印メグミルクの京都池上製造所があり、直接ではないものの、生産と加工がすぐそばで一体となって行われている。その様子を見たいという声があり、工場見学や牧場見学が盛んに行われている。地元の八木東小学校の社会科見学や中学校の職場体験で子どもたちが訪れるほか、新庄に溢れている自然が珍しい、都会の小中学校からは大型バス2台でやってくることもある。

牧場をつづけていくためには、それなりの広さと周辺地域の理解が不可欠だ。鳴き声や匂いもあるが、新庄という地域の豊かな自然と地域に住んでいる人たちの協力と理解によって、昔からある「牛のいる風景」が守り続けられている。

牧場で生まれた牛は、その後北海道に移送され広々とした牧草地で育成。十分に育った後、新庄地域に戻ってくる。



かえるのお宿

Kaeru no Oyado



2018年末、山室に一軒のカフェがオープンした。店の前にもカエルの置物やフェルトでつくられた人形がたくさん並んでいる、賑やかな古民家カフェ「かえるのお宿」だ。営業するのは、松本千里さん。もともとこの古民家で生まれ育った千里さんは一度は家を出ていたのだが、この家を使う人が誰もいなくなり朽ちていくことが寂しくて、カフェというかたちで使うことを決意した。店名にもつけるほど「かえる」が好きな千里さん。店を始める前から別の場所にかえるグッズのギャラリーをしていたというほどのかえる好きだ。

そのほか、食器やアンティークがお客さんをお出迎えする。千里さんの基本的な考え方は「おもてなし」だ。おじいさんの頃から、家に人を招いておもてなしをする家庭だったこともあって、千里さんは来てくれたお客さんを精一杯おもてなしすることを一番大切にしている。一日中いつでも提供しているお腹いっぱいモーニング、とにかくボリュームがあるけれどヘルシーであつという間に食べてしまう豆腐入りのビッグハンバーグなど、その思いはメニューひとつひとつに反映されている。とにかく千里さんは色々なことに挑戦するのが好

きで、フェルトのカカシづくりもかなりの腕前で、賞の常連だ。サロンのように集まってほしいとの思いから、フェルト教室も実施している。お店をはじめ、若い頃は気がつかなかった土地の魅力がわかったと千里さんは言う。山があって家が並んでいて川が流れている。秋には黄金色の稲穂が広がり、四季が過ぎていく。そんな風景と人々が暮らす家が好きで、この土地と古民家を守っていききたいと言う。フェルトでできた孫とおじいさんのカカシは、懐かしい田園風景の温かさを少しでも味わえるようにと店先に飾られている。



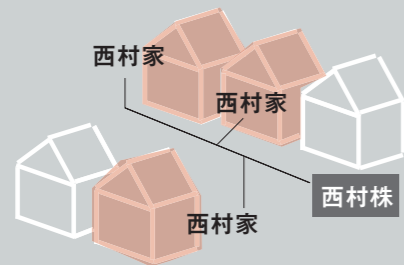
懐かしさのある
日本の原風景と
精一杯のおもてなし

株 WHAT IS KABU?

新庄地域のなかには6つの集落（区）があり、それぞれの区は各組で構成されている。組の単位を「隣組」と呼ぶ。多くが家々の並びで決まっており、回覧板がまわる範囲であったり獣害フェンスの見回りなどがされるご近所さんの範囲だ。さらに代々住んでいるなかには「株内」と呼ばれる単位もある。基本的に同じ苗字が多く大きな親戚ぐらいの単位で、お葬式など何かある時にはこの株内の単位が中心になり動く。このように代々住むなかでつくられてきた、村の助け合う仕組みがある。

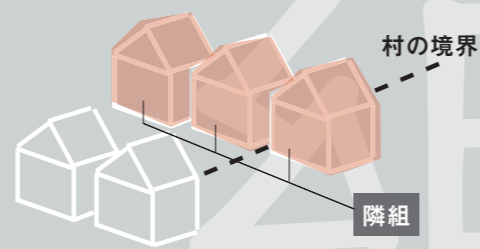
株

村のなかの同じ苗字の家で構成される。隣り合っていないなくても村が同じなら「株内」となる。



隣組

物理的な距離の近さで決められる。隣り合う別の村でも同じ組になることもある。





愛宕灯籠

室橋北公民館の横に「愛宕灯籠」がある。
室橋区 40 軒ほどで、火の神様である愛宕講の灯火を毎晩灯す風習がある。
今も昔も、家内安全や火伏せの神として廃れずに大事にされている。

男前豆腐

2005 年に設立。男前豆腐や風に吹かれて豆腐屋ジョニーなどキャッチーな商品展開。
工場のある船枝の運動会では毎年全世帯に豆腐セットを配ってくれる男前さ。工場の前のジョニー像は桜が似合う。



ユートピア室橋

1999年に設立、室橋地区内の米の生産販売を中心に農地を守り、担い手としての役割を果たそうと活動している。昨年から若手の職員2名が加わり、ますます元気に作業を行っている。



明田自動車

元々自転車屋さんとして、誕生した明田自動車。地域の自動車事情はここ。

木喰の郷もろはた

諸畑区の農業組合。大型機械を導入した土地利用型の農業で、水稻（飼料用米を含む）のほか、小豆・黒豆・トウガラシ・玉ねぎを栽培し、出荷販売を行っている。また、加工部では地元産の農産物を美味しく食べてもらうアイデアを持ち寄り、お味噌やおもち、漬物などをつくっている。



煤竹工房

松本均さんが定年退職後のその手先の器用さを活かし以前から趣味でつくられていたすす竹細工を本格的に開始。大は衝立て、小は一輪挿しまで様々な作品を制作。これまでに数回京都市内の百貨店にて個展を開催されるなどしている。



南丹浄化センター

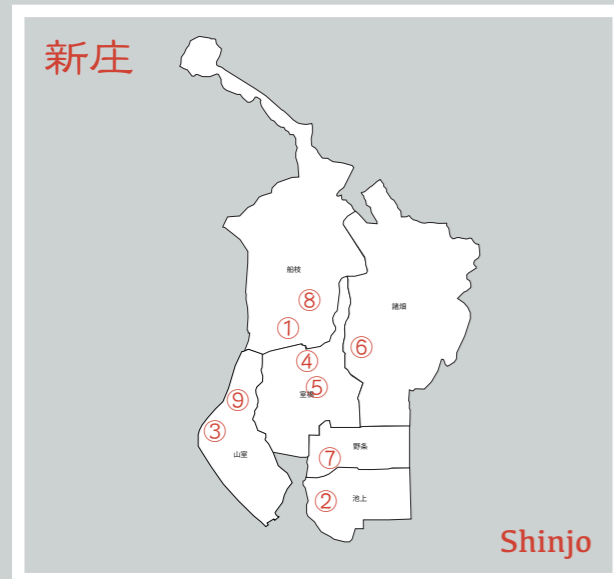
山室区に1999年に設立され、桂川中流域の下水道管理を行っている。10年目の節目に南丹市の運営に京都府から切り替わり、園部町と八木町の801ヘクタールの面積の下水を管理し、1万9100人の健康で良好な生活環境を確保している。



新庄の秋は、美しい彩りに囲まれる。山の木々の色つきもだが、柿や栗など秋ならではの味覚もたくさん味わうことができる。



新庄地域 にある寺社仏閣



① 船井神社



場所：船枝才ノ上 4 9

境内に、源義朝・義家親子に討たれた安部貞任の腕を祀る腕守（かいなもり）と呼ばれる五輪塔がある。腕の痛みに効くとされ、昔は農作業で腕を痛めた人がよくお参りにきていたという。

② 池上院



場所：池上寺ノ内 35

皇慶阿闍梨が万寿年中に開創。皇慶が丹波の地において修法の地を求めていたところ瑞光が谷より発するのを見てこの地を居所に決めた。これが、池上院の始まりである。『聖観音立像』『十一面観音立像』は南丹市指定文化財になっている。(天台宗)

③ 野家守神社



場所：山室宮ノ脇 1

境内に、巖島神社市杵島姫を祀る。大堰川の氾濫の治水時に、この地に神社を建てたと言われる「野」と「家」を守る神社。むかでを神使とし、社紋にもなっている。

④ 福安寺



場所：室橋西垣内 6-7

「上寺」とも呼ばれ、文覚上人への感謝のため住人がつくった。文覚堂にあった「泥かけ地蔵」が福安寺にまつられています。

⑤ 如城寺



場所：室橋西垣内 50

巴御前が亡夫・源義仲の遺命を受け、弔うため、義仲の生前の念誦佛を本尊として建立したと伝えられている。寺の名前は、巴御前の「如城禅定尼」の名にあやかっつけられたと言われている。(臨済宗)

⑥ 清源寺



場所：諸畑大谷口 102

羅漢堂に木喰上人の十六羅漢像や釈迦像が収められている。像に使用された木材は、荘内の樺の大木が用いられたと言われている。民芸研究家で有名な柳宗悦が木喰の仏像彫刻としての美を見出し、世に広めた。(曹洞宗)

⑦ 林泉寺



場所：野条南条 28

林泉寺は播磨守護・赤松氏の子孫が開創した観音寺が始まりと伝えられる。延宝年間（1673-80年）に海岸義雲を開山に迎え、林泉寺が開創されたといわれている。(曹洞宗)

⑧ 帝釈天



場所：船枝里ノ内

1200年の由緒を持つ。本堂には釈迦天立像が安置されている。本堂へ向かう参道には数珠のように連なる108個の「願いの鐘」が並んでいる。ひとつひとつに願いを込めて打ち鳴らすと、願いが叶うと言われる。

⑨ 長安寺



場所：山室垣内 12

1075（正保2）年に設立。浄土宗。園部町の教伝寺の末寺として開山。以後、1815（文化12）年に類焼。その火災により記録書類がなくなっていますが、以後、2012年の建て替えまで200年あまりの古い姿を保っていた。現在も園部教伝寺の住職が兼務している。(浄土宗)

新庄に移り住む

吉井さん家族は、2017年の秋に新庄地域に移り住んだIターンのご家族だ。2020年現在で、三年目になる。

この住居の現在のオーナーと縁があり、移住に結びついた。夫婦それぞれ亀岡市と岐阜の自然豊かなところの出身で、自然がそばにあるところに住みたいとは思っていたものの、新庄と決めていたわけではなかった。候補のひとつとして、もともと知人であったオーナーに家を見せてもらったのだが、最終的に決まったこの古民家は、当初の候補にはなかった。オーナーとしては思い入れがあって貸し出すつもりがない家で見学もしていなかった。だが、その日、この古民家の夢を見たという。何かの運命だと思い、吉井さんが「あの家を見せてください」と頼みこみ、実際に見せてもらったこの場所を「まさに夢を見た場所だ」と確信した。

ここはもともと診療所で地域の人々の健康と安心を守ってきた場所であったが、吉井さん家族が移住を決めた時には、住める状況ではなかったため、徐々に内装を直しながら暮らすことになった。移住一年目の冬は気候が厳しい年で、まだ断熱や空調設備をしつかりと整えていなかったことから、ずいぶん苦労したが、住みながら空間をつくったことで、随分と快適になったという。

一年、二年と経つごとに、家は住みやすい場所となっていった。歴史のある建物と対話しながら、まずは自分たちが住む家という場所との良好な関係性を築き、友達や来訪者を招くことを通じてよりいっそう家が生きていくことを実感しているという。

この土地は「力むことがなく、自然でいられる」と二人は話す。それは都会からも自然からもちょうどよい距離感で触れることができる場所にあるからだという。都会の生活のように情報にあふれていて疲れてしまうこともなければ、買い物や日常生活に困るような場所でもない。家と家の距離も近すぎず、地域の人たちの暖かな眼差しと優しさのおかげで、住みやすいという。

実はお仕事で月のうち半分は家を開けているという。仕事では全国に出張し、東京などの都会への長期出張もあるというが、いまでは仕事から戻ってきたときに故郷のような暖かさに触れて「ようやく帰ってきた」と安心感に包まれる。芯に染み渡り、細胞が喜ぶような気持ちになるという。

厳しい冬には薪で焚いた五右衛門風呂に入り、夏は窓を開けると爽やかな風が通る。季節の巡りとともに、吉井さん家族は新庄の地に根ざしてはじめている。



もともと診療所だった家のなかには「使用中」という看板があったり、診療所特有の匂いがしたという。そこから徐々に自分たちの居場所になっていった。



出役、日役、そんなふうと呼ばれる「地域のおしごと」がある。区によって、草刈りや溝そうじもあり、頻度や時期も異なる。必要だから自らで手入れする。そうしてこの里の風景はつくられてきた。まさに共同体。森も水も土も田畑も、自らが生きる土地を自らでつくって、管理して、健全に、美しく保ってきた。土地に根ざして生きること。この里山の美しさは、先人たちの「おしごと」によっていまも続いている。



新庄という船に乗って





はつもう館

1842 生まれ井上半介(井上 堰水)がはじめた寺子屋。のちの新庄小学校前身。文覚さんのように新庄に役にたつ人物になりたいと思い設立。西洋の知識や文化を紹介。

松本文栄堂

現職 70 歳の松本さんの、ひいおじいさんが始めた名前「文英」から文栄堂に。お酒やお菓子などが売られている。

飴やアイスなどあたりが当たるともうひとつもらえたり、駄菓子屋さんみんなの幼少期の思い出の場所だ。



室橋駐在所

小学生たちの見送りや、夏休み前の防犯対策教室などこの地域の見守り役だ。



ジャトコ

静岡県富士市に本社を置く自動車変速機メーカー。2004年に室橋区に八木工場として設立。毎年秋には、地域との交流を目的とする、ステージや模擬店が並ぶジャトコフェスタが催される。室橋区の自治会もおもちつきなど地元の食材を並べる場になっている。

やまむろだんご

昔は各家庭でつくっていた幻のだんごといわれている「やまむろだんご」。いまでは、一般家庭ではつくることがなくなったが、平均年齢 75 歳のおばあさんたちが、40 代のころから 30 年以上加工グループとして活動し、手づくりしている。40 世帯、親戚などを中心に一日かけて配り歩く名物になっている。



ラポール八木

1985 年に軽費老人ホーム「ラポール八木」(軽費老人ホーム A 型)として開園。社会福祉法人「未生会」による。家庭のような温かさを重視した、高齢者の方が気楽に介護サービスを受けられる環境と雰囲気作りをおこなっている。



法人いけがみ

池上区の農業組合。お米や麦を中心に小豆、大豆などをてがける。作業チーム 10 名を中心に女性の方々、移住してこられた方も含めて地域全体で助け合って運営している。

54 昭和40年度 新庄小学校卒業生



1960年
小学校卒業



1966年3月
小学6年生
卒業式直前の頃

新庄地域を活性化し、後世まで守り継ぐ。その時代その時代の、この土地に暮らしてきた人たちがそうしてバトンを繋いできた。地域のための仕事（自治会や振興会など）を引き受ける多くの人々が、実は昭和40年度の新庄小学校卒業の同級生だということに気が付いた。変わりゆく新庄を守る、影の立役者たちだ。



2018年

34年次に学級集団がしっかり確立し、それは当時の担任の先生の「主体的に学ぶ」「日々の記録を文章で綴る」習慣づけがなされたことと関係している。宿題をやらせるのではなく、各自が必要なることを計画立てて学ばせる雰囲気があった。同時に学級会では互いのことを考えさせる指導もあった。

5.6年時には同級生だけで合唱団や花づくりサークルを自らでつくり活動することもあり、それが新聞で報道されたりもした。そういう中で育ったことが地域への愛着が形成された一因と言えるだろう。

(アンケートより)



2019年



新庄を含む周辺地域では、冬の朝には濃い霧の日がある。田園風景が幻想的な白いモヤに包まれる。



船井神社の氏子さんたちが集まり、年末にしめ縄をつくる。



新庄という船に乗って

新庄 地域の 6つの 地区

船枝
室橋
山室
諸畑
野条
池上

船枝



Data

世帯数	68
人口	219
小学生	2
幼児	4
空き家	2

独自の団体

和良王会

消防団の加入

義務ではない

緊急避難場所

船枝公民館、消防団

お寺さん・お宮さん

船井神社、福寿寺、帝釈天

農業組合

ふなえだ農業法人

出役

草刈り年3回、農家溝そうじ2回（報酬有）、
墓掃除

室橋



Data

世帯数	52
人口	160
小学生	4
幼児	8
70歳以上の一人暮らし世帯	4
空き家	3

独自の団体

進和会（青年団）、ふれあいグループ、美化
グループ、農産物販売グループ、老人会

消防団の加入

基本的には加入するが、任意

緊急避難場所

北地区地域振興会館

お寺さん・お宮さん

如城寺、船井神社

農業組合

ユートピア

出役

区人足（年4回／免除制度あり）、保全会（年
2回／一斉草刈り作業）

山室



Data

世帯数	42
人口	130
小学生	6
幼児	7
70歳以上の一人暮らし世帯	5
空き家	2

独自の団体

やまむろ加工グループ、高砂クラブ

消防団の加入

健康で区内在住

緊急避難場所

山室ふれあいセンター、自彊クラブ

お寺さん・お宮さん

長安寺（園部教伝寺住職が兼務）、野家守神社

農業組合

山室生産組合

出役

草刈り（当番制）、道作り（春、秋）、水路脇刈り（年3回）、寺墓掃除、農業水路掃除（年3回）、野家守神社掃除（当番制・月2回）

諸畑



Data

世帯数	65
人口	210
小学生	5
幼児	0
70歳以上の一人暮らし世帯	2
空き家	2

独自の団体

さつき会

消防団の加入

自主的に入団（加入義務なし）

緊急避難場所

公民館

お寺さん・お宮さん

政徳寺、清源寺、陰涼寺、船井神社

農業組合

木喰の郷もろはた

出役

草刈り（年4回・報酬有）、溝掃除（農家のみ・年2回・報酬有）

野条



Data

世帯数	40
人口	150
小学生	3
幼児	5
70歳以上の一人暮らし世帯	0
空き家	1

独自の団体

寿クラブ（老人会）、ひまわり会（婦人親睦会）、笑和会（壮年親睦会）、平成会（区親睦会）

消防団の加入

区内在住、18才以上

緊急避難場所

共同作業場

お寺さん・お宮さん

林泉寺、八幡神社

農業組合

野条生産組合

出役

市道整備（年1回）、公民館掃除（月1回/4組班）、獣害防除ネット点検（月2回/当番）、船井神社掃除（輪番制/月1回/2班）、農家水路溝さらえ（春・秋）、草刈り（夏・秋）

池上



Data

世帯数	40
人口	128
小学生	10
幼児	2
70歳以上の一人暮らし世帯	3
空き家	4

独自の団体

婦人会、老人会、サロン華

消防団の加入

区内在住か働いている人、18才以上

緊急避難場所

池上公民館

お寺さん・お宮さん

池上院、久留守神社、八幡神社

農業組合

農事組合法人いけがみ

出役

水路溝さらえ（春・年1回）、秋季総出作業（排水・草刈り・歩道清掃・防犯灯清掃）、雑地の草刈り、鳥獣ネット貼り点検（年2回）、公民館掃除（月1回/四班に別れて）、八幡神社掃除（月1回/2人ずつ）

地域の仕事

共有財産

各区には、代々守ってきた共有の財産がある。暮らしを営むうえで大切な、田、畑、山、水など、みんなで守っていくものだ。

区費

府や市の住民税とは別に区費の支払いがある。集落の行事運営や集会所の管理などにつかわれる大切なお金である。

必役（区人足）

各区のなかで定められる、溝そうじや草刈りなど主に地域内整備活動。地域住民による地域をつくる自治の仕組みだ。

区長

毎年交代制で担当する。なかには1周してご年配の世帯に戻っているところもある。これには基本的には移住してきた人はカウントされない。

『歩き』さん

各区のなかの組ごとにいる、配りものをする担当者を決める仕組み。区長の家の前に「歩き」の赤い旗がたっているときは配布物はなく、しまわれている時は配布物があるという具合だ。

区入り

区入りをすると区費の支払いなどが発生するが、ゴミ捨てや配り物なども区で対応しているため、地域での暮らしには区入りは欠かせない。

ゴミ捨て

市から配布されるゴミカレンダーの指定日に、指定の袋に入れてゴミ捨てる。燃えるゴミは1週間に2度最寄りの収集所へ、ビニールゴミは2週間に1度区で指定された収集所に集める。

情報関連

各戸に設置されている防災無線から、災害情報や注意事項、イベント情報などが放送される。南丹市情報センターによるケーブルテレビとインターネットサービスが利用できる。各組ごとにまわる回覧板は、自治会情報や注意事項などを知ることができる。

医療

かつては船枝区に診療所が2軒あった。八木にある京都中部広域医療センターが車で10分ほどの距離にあるほか、内科、歯科医院なども10分圏内にある。

交通

JR山陰嵯峨野線 八木駅まで車で10分程度、吉富駅まで7分程度かかる。京都市や亀岡市まで、自転車通勤も可能。また京都縦貫道八木西ICも車で5分ほど。バスが運行していない地域において運行されるデマンドバス（予約制乗り相型タクシー）のサービスもある。

消防について

火災や水害、地震などあらゆる災害時に地域を守る担い手。各区ごとに、パトロールや、ポンプ車などを用いた訓練を随時おこなう。主に若手男性の住民で組織されているが年々高齢化がすすんでいる。

災害時避難場所

基本的に各区の会所が指定されているが、そもそも集落が山沿いにあるため、収容避難所は旧新庄小学校に開設されている。

冠婚葬祭

各組の連絡網で連絡が入る。かつては株内が主催し協力関係にあったが近年は、葬祭場でとりおこなうのが一般的。

新 庄

という船に乗って

2020年3月31日発行

新庄地域振興会

京都府南丹市八木町船枝才ノ上 48

TEL 0771-42-3057

撮影にご協力いただいた皆さん

桂 絵理香さん、松本 弥三雄さん、松本 一弥さん、松本 道宏さん、西村 春生さん、松本 久仁子さん、三觜 陽子さん、川勝 ます子さん、松本 久枝さん、松本 美鈴さん、橋本 治樹さん、西河 雅穂さん、西村 好高さん、若井 睦巳さん、西河 水乃美さん、大西 智帆さん、井尻 律子さん、明田 卓也さん、松本 史郎さん、栗山 一也さん、池上 幸一さん